

災害に備えた地域での支え合い研修会2025

避難支援の必要性 ～相談支援事業所の取組や関わりから

社会福祉法人北翔会 相談室あゆみ

主任相談支援専門員

地域支援員

山田幸広

障がい者相談支援事業所の紹介

^{だれ} ^{そうだん}
? 誰が相談できますか？

- ・ ^{しょう} ^{なんびょう} ^こ ^{さま} ^{おとな} ^{かた}
障がいや難病のあるお子様から大人の方
- ・ ^か ^{そく} ^{かた}
ご家族の方
- ・ ^{かんけい} ^し ^{せつ} ^き ^{かん} ^{かた}
関係施設や機関のスタッフの方
- ・ ^ち ^{いき} ^す ^{かた}
地域にお住まいの方

など



全区に地域支援員の配置

・地域で暮らす障がいのある方が安心して暮らせるよう、地域住民や町内会、福祉関係機関などと協力体制をつくることを目的に、障がい者相談支援事業所に配置されている相談員のことです。

・災害時の障がいのある方へのサポート体制づくりや、障がいのある方への啓発
・理解を広める活動も行っています。

・地域で困りごとを抱えている障がいのある方や地域で見守り等が必要と思われる障がいのある方についてのご相談等も可能です。

区	事業所名	住所	業務時間	電話番号
中央	地域生活支援センター さっぽろ	中央区大通西19丁目 WEST19 5階	月～金 10:00～18:00 土 10:00～13:00	011-6 2 2 - 1 1 1 8
北	相談室ぽらりす	北区北21条西5丁目 1-32 梅ノ木ビル 202	月～金 9:00～17:00	011-7 5 7 - 1 8 7 1
東	相談室セーボネス	東区北35条東9丁目 1番20号	月～金 8:30～17:00	011-7 4 8 - 3 1 1 9
白石	相談室あゆみ	白石区川北2254番地1	月～金 9:30～17:30	011-350-8755
厚別	相談室ますとびいー	厚別区上野幌3条4丁目 1-12	月～金 9:00～17:30	011-2 9 9 - 3 8 5 6
豊平	相談室みなみ	豊平区平岸2条9丁目 1-23 アムール平岸 401	月～金 9:00～17:30	011-8 2 5 - 1 3 7 3
清田	相談支援事業所ノック	清田区真栄1条2丁目 1-28真栄ビル1階	月～金 9:00～17:30 土 9:00～12:00	011-3 7 8 - 4 2 4 4
南	ほっと相談センター	南区川沿2条2丁目5-37	月～金 9:00～17:00	011-5 7 2 - 2 2 2 0
西	相談室すきっぷ	西区西町北20丁目 2-21 アイビル西町北	月～金 9:30～17:30	011-6 7 6 - 0 1 0 1
手稲	障がい相談あかり	手稲区手稲本町2条3丁目8-18 テイネビル1階	月～金 9:00～17:00	011-21 5 - 8253

2018年北海道胆振東部地震の反省

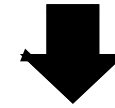
情報収集

- 携帯電話の充電、給水場所
- 避難所開設状況
- 受け入れ医療機関（医療的ケア児等の対応）
- 食料の確保（炊き出しなど）
- 交通状況

相談者への支援

- 安否確認
- 福祉サービス等の利用継続
- 情報提供

必要な情報が得られなく、相談者への対応が十分にできない、相談者の被災状況が確認できない等、できることが限定的・部分的だった。



平時からの準備（備え）が必要

様々な情報整理

地域とのつながり

課題

相談者への準備

関係機関との協働

要配慮者支援の具体的取り組み (当事者の声)

- Aさん 50代 女性
- 肢体不自由（車いす使用）
- 一戸建て、一人暮らし
- 隣近所と挨拶を交わす程度



～Aさんからの言葉～

私のような肢体不自由の車いすユーザーは、着替えなどの動作に時間がかかったり、移乗は一人では難しいです。車いすでは、少しの段差や障害物があると身動きが取れなくなり、助けが必要になります。

災害の時は、避難所までどうやって行けばいいのか、避難所で安全に過ごすことができるのか、誰か手助けしてくれる人がいるのか、このまま自宅にいた方がいいのか、外にも行けない、情報がわからない中で、判断に困り不安です。家族を頼れない時に、誰に相談したらいいのか、近所を頼っていいのか、不安なことが多いです。

災害の時に急に相談したり、頼ったりすることも難しいので、日頃から顔を合わせて、私のことを知ってもらい、少しでも助けてもらえると安心です。

要配慮者支援の具体的取り組み (当事者の声)

- Bさん 20代 女性
- 肢体不自由（車いす使用）、重度の精神遅滞
- 一戸建て、家族と同居
- 近所との交流は頻繁

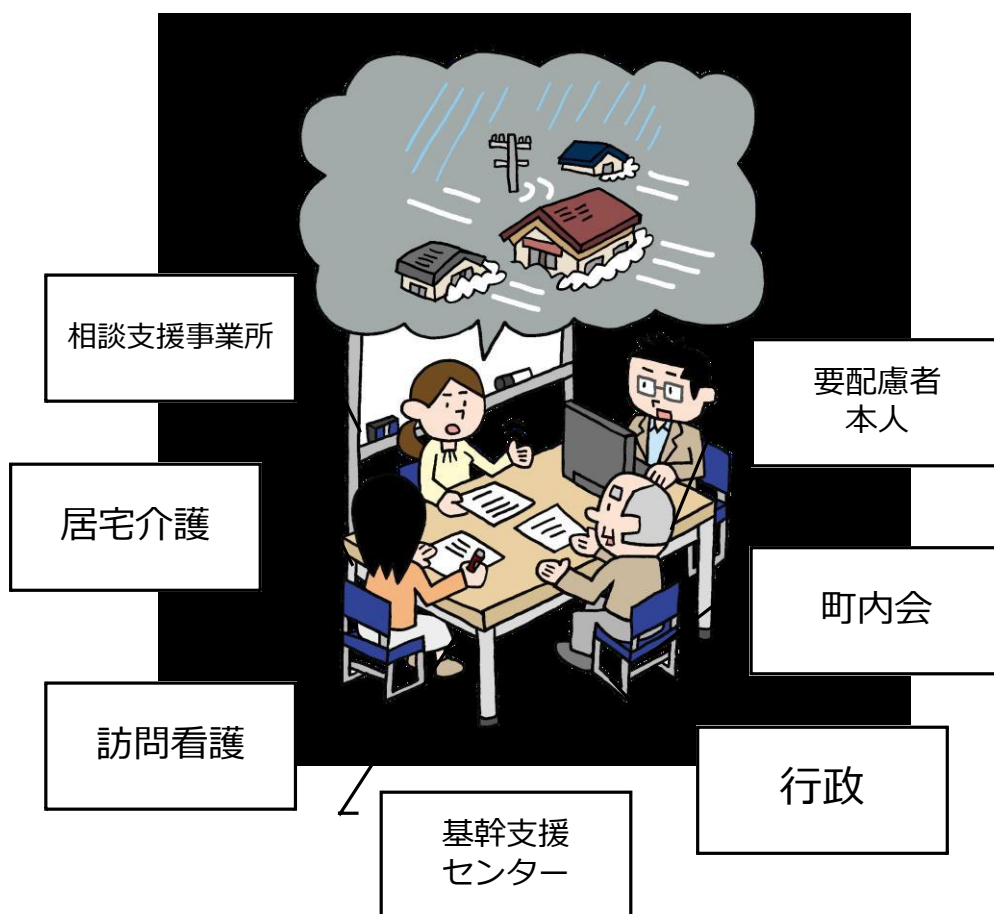
～Bさん家族からの言葉～

私の娘は、重度の障害があり、食事や着替え、移動などの動作は、家族や支援者が介助しながら生活しています。

娘は、意思を伝えることが難しく、慣れた方でないと介助が難しいと思うので、災害の時は、家族で何とかしなきゃと思っていた。近隣や町内会の人にも被災者になるので、頼って良いものかわからないし、難しい印象がある。

まずは、自分たちで、できることから準備をしていきたいと思う。

要配慮者支援の具体的取り組み (仲間を集め、話し合い)



参加者で出来ることは何だろう？

この地域で想定される災害リスクは？

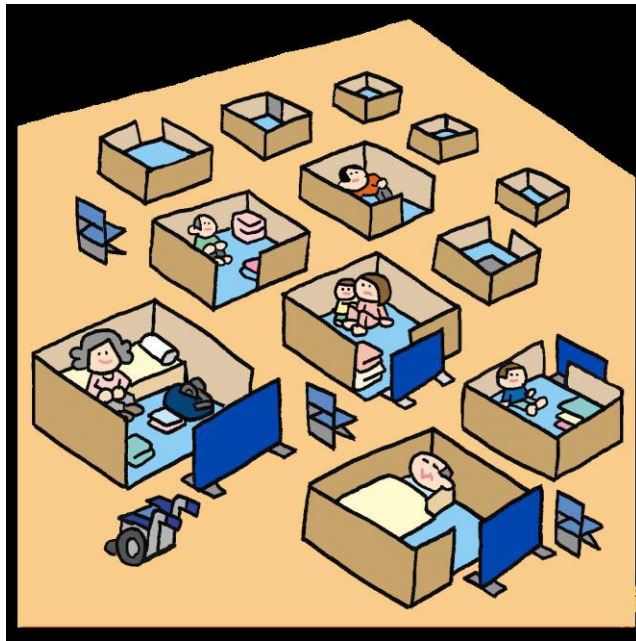
避難先はどこが良いのだろうか？

避難所で過ごすことができるのかな？

この地域（町内会）の実情は？

どのような介助が必要となるか？ など

要配慮者支援の具体的取り組み (避難訓練、避難所見学)



- ・ヘルパーにサポートしてもらい、
支援者に実際の介助を体験もらう。
- ・避難経路や移動手段の注意点、移動
時間の検証を実施。
- ・避難所設備は、本人に適応できるか。
- ・避難時の持ち物は、何は必要か。など

実践からの気づき

- 「わからない」「どうしよう」から「こうやってみよう」へ
- 支援者の動き方や役割・イメージの共有、支援者負担の分散
- 要配慮者の安心感や自助力の向上
- 日頃の何気ない近所付き合いへ展開
- 福祉・医療サービスの質の向上

個別避難計画作成を通しての気づき

■ 命を守る実行性のある計画

計画書を埋めるだけの作業ではなく、個々にとって必要となる情報の網羅。

【作成ポイント】

- ・ 個別性（障がい特性、生活リズム、生活環境、サービス活用など）
- ・ 地域性（立地、自治会・町内会の状況、公共・商業施設などの資源）
- ・ 関係性（行政・地域・福祉・教育などの横断的ネットワーク体制）

■ 作成で終わらない計画

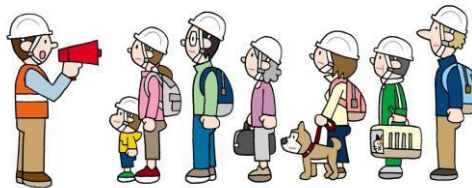
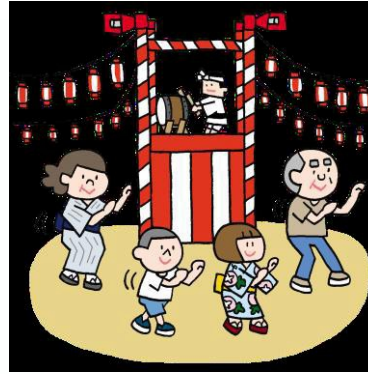
要配慮者の病状や環境変化、支援者の環境変化に合わせて修正・更新できる仕組み作り。

【実施ポイント】

- ・ リードするのは誰？
- ・ どのタイミングまたは期間で実施するのが良い？

災害は突然やってくる！ だからこそ「つながり」の継続

つながるきっかけは何でもよいのでは...



支え合う人や環境が移り変わっても
「つながり」が絶えない
地域・行政・支援機関のネットワーク

ご清聴ありがとうございました